

サービス業

業況、売上、採算

今期（2023.1～3）の業況判断DIは14.3で、前年同期（2022.1～3）と比べ35.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

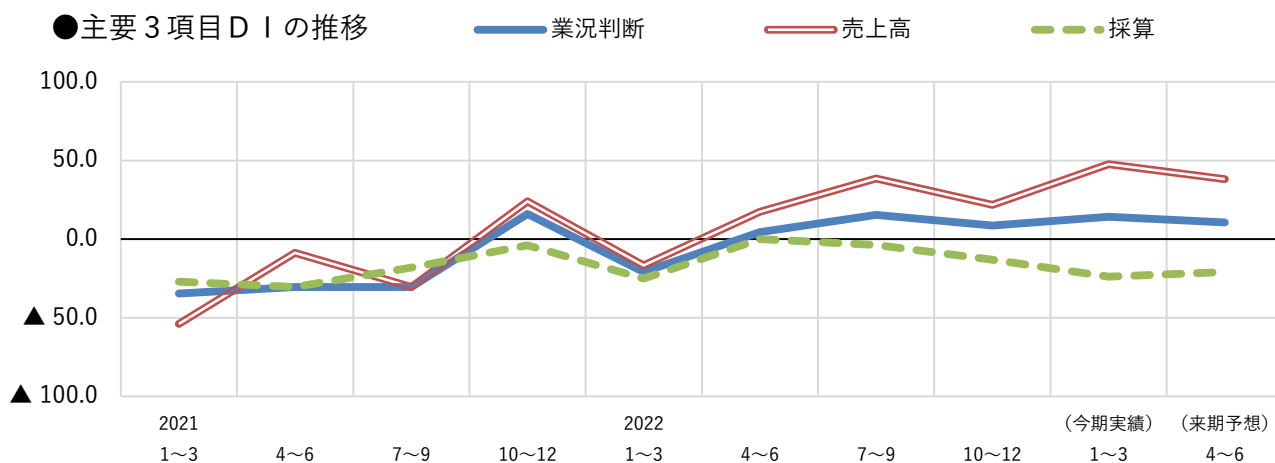
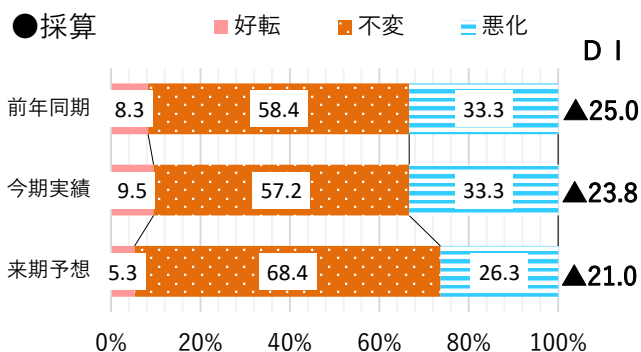
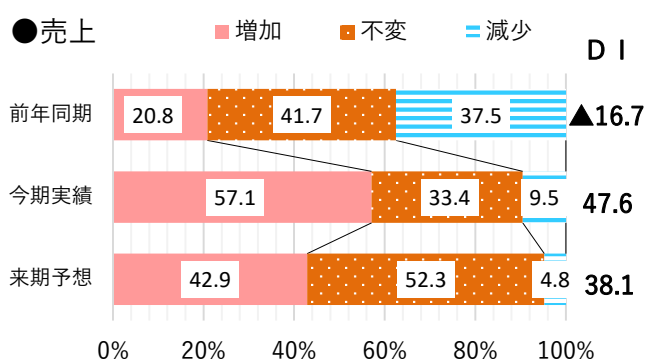
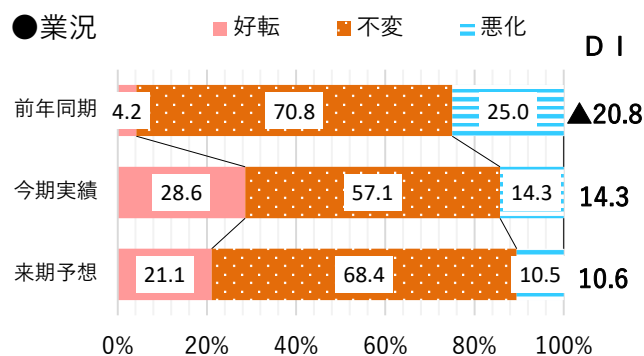
来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。

今期の売上高DIは47.6で、前年同期と比べ64.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは▲23.8で、前年同期と比べ1.2ポイント上昇しました。

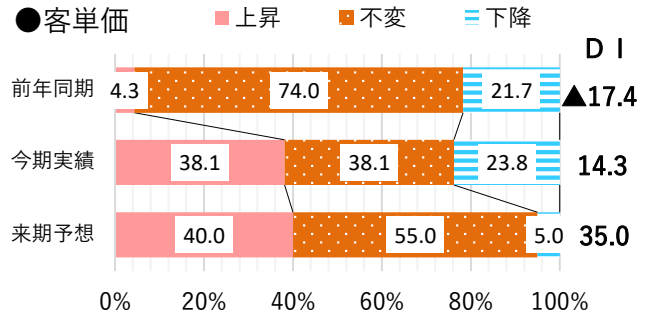
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

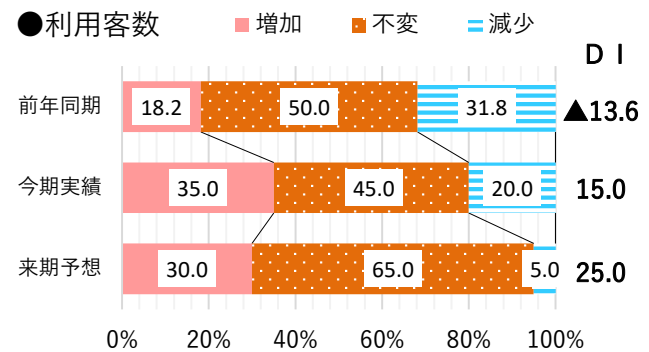
今期の客単価DIは14.3で、前年同期と比べ31.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が強まると予想しています。



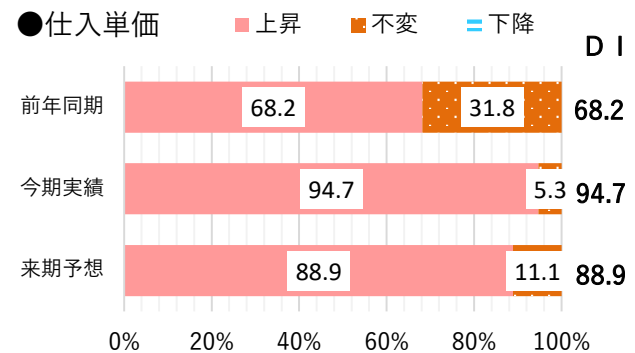
今期の利用客数DIは15.0で、前年同期と比べ28.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が強まると予想しています。



今期の仕入単価DIは94.7で、前年同期と比べ26.5ポイント上昇しました。

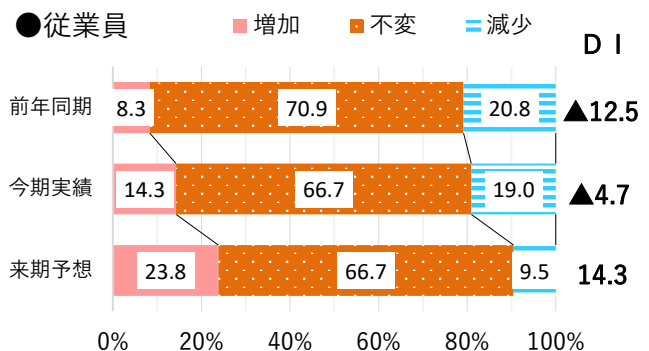
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

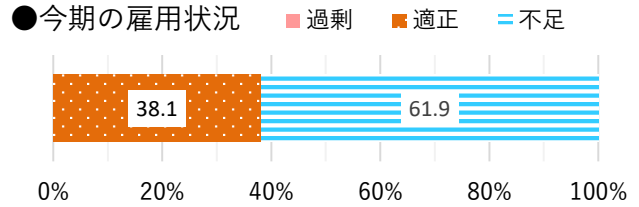
今期の従業員数DIは▲4.7で、前年同期と比べ7.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は38.1%、不足していると回答した企業の割合は61.9%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、38.0%を占めましたが、回答全体では、61.9%で従業員が不足しています。

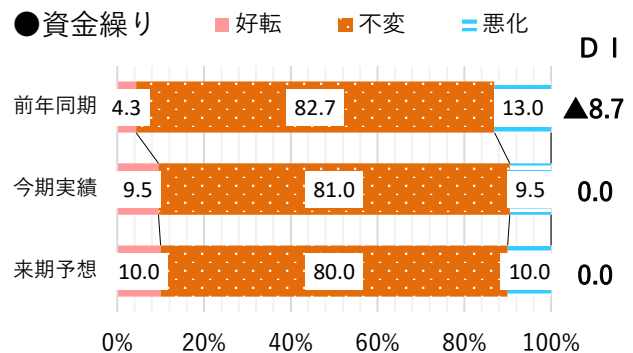


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

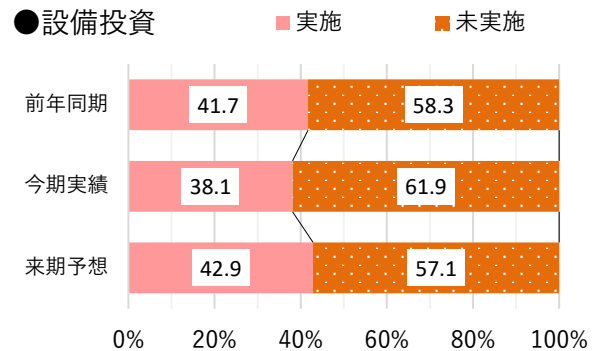
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ8.7ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



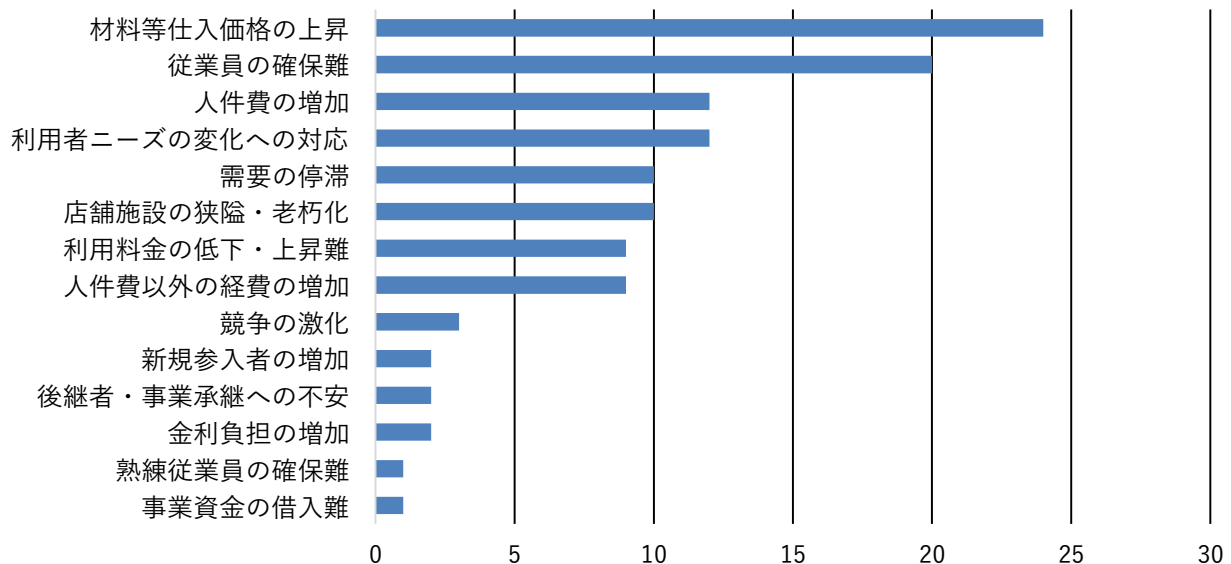
設備投資を実施した企業の割合は38.1%で、前年同期と比べ3.6%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「車両運搬具」、「その他」（同位）、2位が「土地」、「建物」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」、「利用者ニーズの変化への対応」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍以前の状況に少しずつ戻ってきている。本州からのお客様やインバウンドが増えて売上は増加したが、材料価格の高騰、光熱費その他経費の増加で利益率はあまり良くない。（飲食店）
- 仕入価格の上昇と人材確保に苦慮している。（飲食店）
- 利用客数は増えていないが、オプションを注文されるお客様によって客単価が上昇した。仕入単価は少しずつ上昇している。コストを削減し、経常利益に影響が出ないように務めている。（美容業）
- 最低賃金や諸経費の上昇等が利益を圧迫し始めている。（ビルメンテナンス）
- 物価高騰により、仕入単価が上昇した。（ビルメンテナンス）
- 観光客が増加し、需要が回復した。（ビルメンテナンス）
- 売上、客単価は増加したが原材料費（ドル決済のクラウドサーバー、光熱費）上昇の影響を受けている。（情報処理・提供サービス業）
- 新規顧客の開拓を重視し、売上の増加に向けて取り組んだ。（保険業）
- 1～2月は例年売上が伸びないので、原材料費やエネルギー価格の高騰もあり、資金繰りが厳しかった。3月は年度末でもあり、例年並みの売上に落ち着いた。（写真業）
- 売上と利用客数が減少傾向にある。社会が写真にお金をかけない傾向にあると思う。（写真業）
- コロナ禍が一段落し、業況回復の兆しが見え始めた。（出版業）
- 市外利用者は増加したが、市内利用者は減少した。（不動産代理・仲介業）
- 仕入先のメーカーから多数の値上げ受け入れ要請がある。人材は部署により過不足が生じているが、全体として不足しており、従業員の確保が課題だ。（各種物品賃貸業）

[来期の業況について]

- 今期と同様に客数は回復するが、材料価格や経費の増加が続く。（飲食店）
- コロナ禍に伴う規制が緩和され、外出の機会が増えるため、需要が高まると思われる。また、季節の変わり目は客数が増えるため、忙しくなると思われる。（美容業）

- 今後も最低賃金の大幅な引き上げが予想され、労働集約産業は厳しさが増す。（ビルメンテナンス）
- 契約金の引き上げを予定しているため、売上が増加すると思われる。（ビルメンテナンス）
- 賃貸物件の空きが増加する。（ビルメンテナンス）
- 新規案件があり、見通しは良好だが、原材料価格の上昇が気に掛かる。（情報処理・提供サービス業）
- 従業員が1人退職するため、人材確保が必須だ。（保険業）
- 新しい取引先も増えていないので、例年並みに落ち着くことを望む。（写真業）
- 客数は不変だと思われるが、取り扱い商品の確保が難しくなる可能性がある。（不動産代理・仲介業）
- 顧客に対する値上げ交渉を継続する。人材確保に積極的に取り組む。（各種物品賃貸業）